

■ 1 班

交流

多様な意見
環境に触れる
機会がある

市外との連携

インフラ

充実した
教育設備
(インフラ)

安心して永く使える
校舎

災害時の
避難の施設

教育・心理面

特殊ある
学校の在り方

距離感

いじめ

メンタルケア

一人ひとり
目の届く教育

環境の変化に伴う
児童の対応

通学

アクセスルート

通学時間

通学（郊外から来る子ども
の通学時間が長くなる）

通学の負担の
期限

通学時間の
確保

学校給食の
配置

地域交流

地域との関係
(町内会議とのつながり)

地域の人との
触れ合えるような学校

沿革
設立～現在

■ 2 班

社会

親の学びもある
学校

生活の場としての
学校

透明性のある学校

市の在り方・未来

学校再編
市全体の問題
少子化・高齢化

10,20年
学校はあるか

何も変化ない
縮小しかない

教育の質

出会い

新たな仲間との出会い
(クラス替え)

教育の質
色々なグループ
中で学べる

社会教育の
変化や対応

教育の質
大人になっ
ても困らない

社会に出るための
準備

教育の質
子ども同士の
競い合い

複数学級
(1学級20人以上)

クラスで馴染むことができ
ない子もいるので1クラス
よりは多い方がよい

思い出の地

防災

地域の学校
防災との関わり

避難場所

組織

実際に通うことになる子
どもたちの保護者にこそ、
こういう場においてほしい

通学

通学時間に不安

通学方法に不安

通学
時間・方法

通学時間が多くなると大変
バス通学になると1年生と6年生
では体力も変わると思う

呼人小中学校で感じる
ことは通学の問題が
一番ネックになること

■ 3 班

安心・安全に通える通学時間

通学
子どもと親の
負担

冬季

子どもが安全
に通える環境

家庭への負担

通学距離

通学について

通学時間

不安解消

子どもが不安
なく通える
環境

子どもと子ども
先生と先生
の接続

財源

財源が確保できる
状況であるのか

費用面の計算

教育の質・クラス替え

地域ごとの
問題の共有

教員数
(マンパワー)

教育の質
(クラス人数・基準)

教職員の
人員や質

多様な価値感に触れ、
多様な考え方ができる教育

地域交流

交流環境

地域まちづくり

今まで通り地域の方
と交流できる環境

地域との交流

小・中区域が
決まっている

災害時に対応
できる環境

■ 4 班

再編に伴って出てくる様々な心配

通学の問題

遠距離
通学の心配

JRの利用等

統合になった場合
の場所が重要
(通学時間等)

スクールバス

通学
スクールバスの確保
冬季間の対応

スクールバスの
台数・時間

親の負担増

中学校の統合は早め
た方がよいのでは？

教育の質

学校文化伝統の継承

網走モデルの確立

周知

現場の声

もっと多くの声を
・子どもたち
・先生方
・地域の人々

保護者への説明

住民や保護者
への説明は？

3校体制案の
1人歩き

急ぎすぎ

3校が適切なのか

統合は必要なのか？

メリット

公共施設と併設

学区に捉われず
に選べる学校

小中一貫のメリットを
出せる

心理面

いじめ

児童の心理的
不安への対応

いじめや人間
関係への対応

学校間の
連携強化

いじめの問題

■ 5 班

各種計画との整合

こども計画との
整合性

【まちづくり】
都市計画・公共施設整備
個別でなく連携してほしい

まちづくりビジョン複合化
(児童クラブ・児童館)

農業との関係

農業の衰退
(若い子育て世代の減少)

郊外(農村部)
の人口減少

インフラ

既存学校の
解体・利用

建物
(場所)

マイナスをプ
ラスにする必要

教育の質

クラブ活動

クラブ活動・
部活動への
地域化

クラブ活動

一人ひとりの
能力を伸ばし
ていける環境

生徒、児童
職員の数

町の将来(長期・短期)

【前提条件】
意見を聴く会の結果は重い
協議会の立ち位置参考

学校再編を検討する
だけで良いのか？
町の未来を広く考える

長期的には再編は必要
短期的に必要なものは？

通学

【学校の在り方】
通学時間・方法
バスのインフラ持続は
大変です

通学
(下校方法)

通学場所

通学区域
通学環境

立地
安全性
通学
就学

スクールバスの運行案・
移動時間

郊外の学校をなくすと
移住が必要

文化の継承・交流

リセットして新
しくするもので
はなく何を受け
継ぐかが大切

各学校の文化を
受け継ぐ

一緒にやる必
然性を作り上
げる

規模や施設の問題とは
違う面が大切